

ハナチる里から

北島聖美

‘ハナチる里’ 或いは ‘ハナチらしの里’, この名を教えて下さったのは、確か正林先生だったと思う。田平町の里田原のことである。季節は春ではなくて、冬。里田原の調査は主に水田部のため、稲作の終わった冬場が調査の季節である。一丘越えれば玄界灘の里田原では北風が吹きすさび、ハナチる里となるのである。但しチるものは ‘さくらの花’ ではなく ‘水っ洩’ のハナ……。

昭和47年の発見時から正林先生は里田原に関わっていらっしゃるが、その前年につぐめのはな遺跡の調査もされている。県文化課を退職された後もずっとお世話になっている。困ったときの ‘先生頼み’ で、厚かましくお願いをし、少ない謝金にもかかわらず来て頂いて手を煩わせている。粉雪舞い散る中で石棺の実測をして頂いたというか、させたのも里田原くらいではないだろうか。

ところで先生には重要な遺物の取り上げをして頂いた。1つは平成12年度の高鈕細文鏡、1つは平成9年度のデポ（磨製石斧の集積遺構としたが）、ともに私の手にあまる資料で、今でも先生がいらっしゃったときでラッキーだったと思う。

多分一番お世話になり、一番ご迷惑とご心配をおかけしているところであろう。先生には本当に心から感謝しています。今後とも里田原に関わって頂けたらと思っています。正林先生は里田原歴史民俗資料館の ‘名誉館長’ なのですから。



田平町里田原遺跡第5次調査にて（1979年）
前列左端：正林先生、後列左端：高野晋司氏（現学芸文化課）